

いのちいちばん



今年は正月早々、大寒波が日本列島を覆い、大阪でも厳しい寒さが続きました。今福小でも、1月中旬からインフルエンザにかかる児童が徐々に増え、1月末には4～6年生が学年休業となりました。学校でも手洗い・うがい、マスク着用等の指導をしていますが、ご家庭でもご指導をお願いします。

さて23年前の平成7年1月17日は阪神淡路大震災が起きた悪夢の日ですが、私にとっても悲しい記憶が残っています。私が大学生時代にお世話になった伯父が家屋倒壊で亡くなり、生き残った伯母も長い間、仮設住宅で過ごしたあとと亡くなったからです。

阪神淡路大震災では6千4百人を超える方が亡くなり、その後も鳥取、新潟、東日本、長野、熊本等で次々と大きな地震や津波等の災害が起こり多くの方々が犠牲になりました。

本校では1月17日、地震・津波をテーマに避難訓練を実施しましたが、この避難訓練等を通して、私たちは実際にあった大災害を子どもたちに伝え、どのように対応すればよいのかを教えていかなければならないと考えています。

避難訓練（地震・津波）

平成23年3月11日に起きた東日本大震災では、行方不明者を含むと2万人近くの方が亡くなりました。日本中がテレビに映る衝撃映像にくぎ付けになり、^{かたず}固唾を飲んだことは記憶に新しいと思います。

阪神淡路大震災から16年後、今度は東北地方で想像を絶する大きな地震と津波、福島原子力発電所事故等の同時多発により関東から東北地方、北海道に至るまでの広大な範囲に多大の被害をもたらしました。



東北地方の大災害は今でもテレビ放映されているため、今の小学生もある程度記憶に残っているのか、本校の避難訓練（1月17日実施）への取り組み意識や行動もてきばきとしていました。

土曜授業（第55次南極地域観測隊越冬隊 久保田 弘さん）

1月27日（土）、「南極ってどんなところ？」というテーマで、第55次南極地域観測隊越冬隊員の久保田弘さんからご講演をしていただきました。私たちにとって未知の世界である南極で、H25.11～H27.3までの約1年4か月もの間、久保田さんはどのような生活や仕事をされていたのか、また日本とは全く異なり、常識では考えられない自然環境や自然現象について映像や写真を交えながらご講演いただきました。

また東京立川市にある「国立極地研究所」より送っていただいた南極で採取した氷に直接触れたり、その氷が溶ける時に氷の中から音を立てたりしながら出てくる1～2万年前の空気に児童は驚いていました。

この講演の様子は「校長室便り特集号」でも紹介していますので、本校HPでご覧ください。

久保田 弘氏：・現在所属：総務省近畿総合通信局

・「南極極地観測隊越冬隊」所管：国立極地研究所（文部科学省所管）



6年生卒業遠足（キッザニア甲子園）

卒業式まであと40日となりました。6年生は2月2日、最後の行事となる卒業遠足で「キッザニア甲子園」に行きました。キッザニア甲子園には、お寿司屋、消防士、医者などたくさんの職業体験ができるブースがあり、子どもたちはそれぞれ自分が体験したいブースで楽しく活動していました。



本校では「学校だより」や公式HPでいろいろな取り組みを紹介していますので、ぜひご覧いただければと思います。今後とも子どもたちが頑張る姿にご声援をお願いします。